件名	子宮頸がんワクチン接種の一時中止及び接種者への早急な追跡調査に関する陳情			
提出者住所氏名	墨田区京島 F			
受理年月日	平成25年6月5日	受理番号	第7号	
<p>要旨</p> <ol style="list-style-type: none"> 副反応被害をこれ以上拡大させないために、子どもたちへの子宮頸がんワクチン接種に対して、速やかに一時中止を含む接種事業の抜本的な見直しをするよう、国に対し、意見書を提出してください。 既に子宮頸がんワクチンを接種した対象者全員に対する健康被害状況の追跡調査を速やかに実施し、重篤な健康被害者の早期発見及び救済体制を整えてください。 <p>(理由)</p> <p>平成25年3月の予防接種法の改正により、子宮頸がんワクチンの接種が4月から法定接種となり、日本中の小学校6年生から高校1年生相当の年齢までの女子が公費負担で接種できることとなりました。</p> <p>しかし、このワクチン（サーバリックス及びガーダシル）の接種後、重い健康被害に苦しむ子どもたちが出てきており、インフルエンザワクチンと比べると、その5.2倍もの重篤な副反応があるという、驚くべきリスクの高いワクチンです。</p> <p>私が墨田区に問い合わせたところ、全国で被害が出ているにもかかわらず、医療機関から報告があったのは、平成23年度は7件、平成24年度は0件ということでした。幸いにも重篤な症例はまだ報告がないとのことですが、この内容は医療機関からの報告だけで、区が接種者全員を調査した結果ではありません。</p> <p>国が調査を進める方針ですが、事態は急を要します。「子宮頸がんワクチン問題」は、対応が遅れば遅れるほど被害が多くなり、我が区でも子どもたちに重篤な被害が出る可能性は否定できません。被害が出てから対応するのでは、あまりにも無責任です。</p> <p>心身共に未成熟な子どもたちに今後いかなる影響を及ぼすのか、特に親たちにとっては不安で重大な問題です。</p> <p>一日も早い子宮頸がんワクチン接種の中止と、今まで接種した子どもたちへの追跡調査を墨田区に強く要望いたします。</p> <p>以上の趣旨をご理解の上、上記事項の実現をお願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>				